

庄内川しやうないがわと新川しんかわに挟まれ、南に向かつて逆三角形の形をした下之一色ぎやくさんかつけいは、中川区でも特有の歴史を持つ土地です。かつて庄内川は、中須から江松方面えまつほうめんに向かい、さらに現在の新川付近げんさいを流れており、当時、庄内川の東側に位置した下之一色は、今では川で切り離されている松蔭まつかげとも一続きひとつじになっていました。その後、1767(明和4)年の洪水こうずいで中須から下之一色までの庄内川の分流ぶんりゆうが出来たことを契機けいきとした瀬違せちがえ(河道変更かどうへんこう)と、1783(天明3)年には新川が開削された結果、現在のかさいくような地形となりました。第二次大戦後まで、中須から江松への古い河道かやうの堤防ていぼうが残っており、かつての名残なごりが見られたそうです。

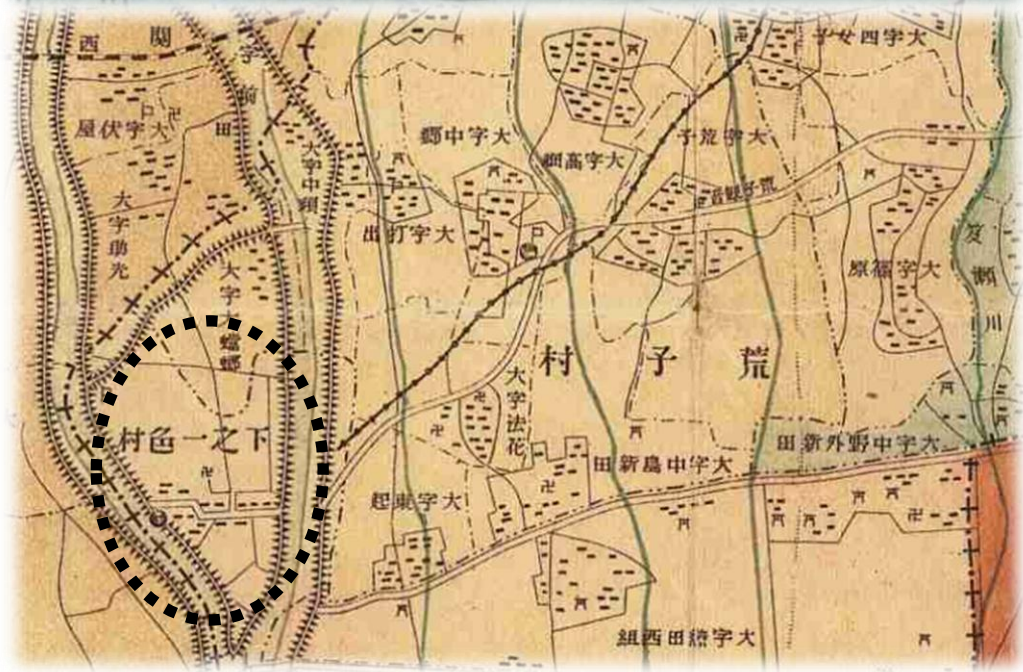
漁業うしぎやうの始まりは定かではありませんが、江戸時代前期きりくの記録である『寛文村々覚書かんぶんむらむらおぼえがき』には、家244軒、人口1246人、猟船りやうせん64艘とあり、すでに漁業が行なわれていたことがわかります。

明治以降いこう、周辺しゅうへんとは合併せず、単独たんどくで村から町となった下之一色は、1937(昭和12)年3月、名古屋市中区となり、同10月に区の新設しんせつで中川区となりました。その後も漁師町として繁栄はんえいしましたが、1959(昭和34)年の伊勢湾台風いせわんたいふうを受けた名古屋港の高潮防波堤たかしおぼうちょうてい建設の結果、漁業に終止符しゅうしふを打ちました。また、1913(大正2)年に開通した下之一色電車を引き継いだ市電は、1969(昭和44)年に廃止されるまで、ローカルムードただよ漂う路線ろせんとして知られていました。

【参考】『下之一色地区民俗調査報告』(名古屋市総務局)、『名古屋の漁師町下之一色』(名古屋市博物館)、『なごやの町名』(名古屋市計画局)



←《図1》「尾張国図」【江戸時代・製作年不明】から、下（之）一色周辺の様子。庄内川付け替え以前の図のため、下之一色は東起と同じく、庄内川の東にあります。



←《図2》「愛知県図」【大正2（1913）年】の下之一色村。

*《図1・2》は、名古屋図書館ホームページ内「なごやコレクション」でご覧いただけます。

↓《図3》「尾張国町村絵図」から「下之一色村」【天保12（1841）年】

